

喘息症状の特徴は、「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という呼吸音（ぜん鳴）です。元々アレルギー体質であった、夜間や早朝に咳がよく出るなどがみられる場合も、喘息である確率が高くなります。



喘息の特徴

- ▶ゼーゼー、ヒューヒューというぜん鳴がある
- ▶咳が続き、ときに呼吸困難になる
- ▶症状は一過性だが、繰り返し起こる
- ▶夜間から早朝にかけて症状が出る
- ▶冷たい空気、たばこの煙、ハウスダスト、運動などをきっかけに症状が出やすい
- ▶台風や季節の変わり目に症状が出やすい

大人になってから発症するケースが多い

小児喘息の持越しや、小児喘息が一旦治癒したあと、大人になって再発することもあります。小児期に喘息がなかった人でも、大人になってから（中高年以降）発症することもあります。喘息は慢性疾患です。特に成人喘息は喘息悪化の要因が小児よりも多いため、ほぼ治らないと言われています。

発作が起こったら・・・

- ▶発作の程度を見極め、発作止めの薬（短時間作用性 β_2 刺激薬）を中心とした治療を行います。
- ▶普段から、発作が起きたときの対処法（使う薬、薬の使いかた、受診のタイミングなど）を医師と相談して対処できるようにしましょう。



小発作（軽度）

苦しいが横になれる

中発作（中等度）

苦しくて横になれない

大発作（高度）

動けない
苦しくて話もできない

短時間作用性 β_2 刺激薬を吸入する

効果あり

症状が改善
薬の効果が3~4時間続く

効果なし

症状が改善しない

自宅で療養

発作があったことを
数日以内に主治医に相談する

経口ステロイド薬を手渡されている場合は、指示された量を内服して受診する

慌てずに、短時間作用性 β_2 刺激薬を吸入しながら、周囲の助けをかり

救急車の要請を
検討

救急対応できる医療機関を受診